

第2章 地区の将来像と目標

1. 地区の将来像

地区の将来像は、これからの街づくりにおいて地域のみなさまと共有し、目指していく地区の将来の姿となります。

現在及び将来に亘り地域のみなさまが健全で豊かに暮らし続け、また様々な活動が活発に営まれるよう、概ね10年後の本地区の将来像を定めます。

**多様な歴史と文化が交流・調和・創造する
誰もが住み続けられる安全・安心なまち 祐天寺**

このような将来像を設定した背景について、以下に整理します。

【多様な歴史と文化】

祐天寺駅周辺は、戦後閑静な住宅地として発展し、地域の方々を対象とした商店や旧目黒区役所や「祐天寺」へ来訪する方を対象とした飲食店等が商店街を形成していた下町としての雰囲気も持つ地域でした。

ただし、近年は中目黒駅周辺に見られるカフェ・雑貨・古着やなどの感度の高い新しいタイプの飲食店及び物販店の立地が進み、東急東横線（副都心線）、日比谷線を利用して働く20～30代女性を中心とした居住者の増加、祐天寺駅舎の改修や駅ビルの建設など、これまで地域の方々大切に培ってきた歴史や文化が大きく変化・変容しようとしています。

そのため、このような新旧の歴史と文化（人・営み・建物等）が混ざり合う状況を、本地区の発展の機会として積極的に評価しながら、新たな歴史・文化を生み出す街の発展を目指します。

【交流・調和・創造】

現在の祐天寺駅周辺の特徴としては、古くからのものの中に、新しい要素が加わっている点にあり、この状況を混在にとどめずに、新旧様々な歴史と文化（人・営み・建物等）が交流し、地域全体としての調和を図りながら、地域の顔となる駅前広場からの新しい街祐天寺を創造していくことを目指します。

【誰もが住み続けられる】

本地区は、目黒区の中でも少子高齢化が進行している地域のため、高齢者が暮らし続け、子育てしやすい環境づくりが重要です。

また、中目黒駅に隣接する地域であることと、交通利便性が極めて高いことから住宅地としても注目されており、子どもからお年寄りまで、古くから住む人も新たに住む人にとっても住み続けられる街を目指します。

【安全・安心】

本地区は、目黒区でも木造住宅が密集している地区があり、地震災害時における倒壊及び火災における延焼の危険性が高い地域です。

また、商業業態の変化、居住者の変化及び来訪者の増加などから、風紀・マナーの悪化も懸念されています。

加えて、新しい居住者、新しい店舗の経営者等と地域のコミュニティを支えていた町会・自治会、住区住民会議や商店会等との関係を深めていくことも必要です。

このような、防災・防犯・コミュニティに関する課題を解消し、安全・安心な街づくりの取組みの実現を目指します。

2. 街づくりの目標

街づくりの目標は、地区の将来像を実現するために目指すべき方向性を定めるものです。

地区の将来像である「多様な歴史と文化が交流・調和・創造する 誰もが住み続けられる安全・安心なまち 祐天寺」を実現するための取り組むべき街づくりの目標を示します。

目標 1 : 新旧様々な店舗の集積による活力があり、安全で暮らしやすい居住環境が確保された街

新旧大小様々な個性のある商業施設の集積による賑わいと活力のある街づくりを進めます。

また、閑静な住宅地の良好な居住環境の保全や防災・防犯対策などを図り、暮らしやすく安心して住み続けられる街づくりを進めます。

目標 2 : 安全で快適に移動できる街

地域の顔である駅前ロータリーを中心とした安全な道路ネットワークの形成や通過交通の流入抑止、利用者や運転手が適正に駐輪・駐車を行える環境の形成など、歩行者、自転車利用者、自動車利用者等が安全で快適に移動できる街づくりを進めます。

目標 3 : 地域資源を活用した歩いて楽しめる街

公共施設、地域資源や商店等を回遊することで、周辺地域（中目黒駅周辺等）とも連携した、歩いて楽しめる都市型観光の街づくりの取組みを進めます。

目標 4 : 豊かな地域コミュニティに育まれる街

町会・自治会、住区住民会議や商店会等の地域住民主体の取組みを通じて、誰もが安全で安心して暮らし続けることができる街づくりを進めます。